

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2014.07.No203

7月号

目次

第39回 一般社団法人 北海道建築士会 全道大会(旭川大会)へ“皆 来たれ!”……	1
実行委員会報告……………	5
〔会員増強特別・ヘリテージマネージャー特別〕	
青年・女性の窓……………	6
〔青年委員会〕	
支部だより……………	7
〔日高・小樽・富良野〕	
information……………	8

URL <http://www.h-ab.com/>

第39回 一般社団法人 北海道建築士会全道大会(旭川大会)へ “皆 来たれ!”



大会テーマ 「都心 ルネッサンス」
サブテーマ -氷点のまち 輝くみらい-

第39回 一般社団法人北海道建築士会全道大会実行委員長

一般社団法人北海道建築士会 旭川支部 支部長 石川 吉博

第39回北海道建築士会全道大会は、平成5年の全国大会以来21年振りに、旭川市において開催されるはこびとなりました。旭川は、北海道の内陸部に位置しながらも、道内各地からの新鮮な海産物や、豊富な農産物の集散地として、確固たる地位を築いており、ラーメン、日本酒など、全国にも誇れる「食のまち」としての顔を持っております。

また、今やその知名度も全国区となりました旭山動物園を抱え、周辺の景勝地や温泉地などと相まって、『観光のまち』としてもその名を馳せるようになりました。

今、建築士の資質の維持・向上及び業務環境の改善と共に会員増強の推進が重要課題ではありますが、現実的には、全国の建築士登録数約111万人のうち建築士会の会員数は、約8万7千人であり、全体の8%にすぎない事実もしっかりと見極める必要があります。このことを踏まえたと、例えば、会員一人一名の勧誘活動を行うなど、積極的そして継続的に取り組むことが重要と考えております。

東日本大震災の復興が依然として進まない中、さらに「西日本大震災」と「平成関東大震災」といわれる二つの巨大地震が極めて高い確率で発生するといわれております。我々建築士の責任は極めて重大であり、同時に、社会の発展のため最新の指導者であり、地域社会のトップリーダーとしてその職責を果たすことが使命であります。

旭川出身の小説家三浦綾子氏の代表作『氷点』が発表されてから50年、奇跡の復活を遂げた旭山動物園に学び、都心の再生をテーマに市民と共に歩む大会を、めざしております。

会員の皆様は勿論ですが、ご家族お揃いで是非とも、旭川にお越しいただきますよう、お待ちいたしております。

〔大会プログラム〕

月 日	時 間	開 催 内 容	会 場
9月26日 (金)	13:00~13:30	青年サミット 受付	旭川市市民活動センター CoCoDe (ココデ)
	13:30~17:30	青年サミット テーマ:『あさひかわの今 ~今の旭川を感じ、 みらいに何が必要か~』	
	18:30~20:30	懇親会	
9月27日 (土)	10:30~12:00	来賓・大会参加者受付開始	ロワジールホテル 1階 ロビー
	11:30~12:30	昼食	ロワジールホテル 3階 「ボールルームⅠ」
	12:30~14:30	分科会 A分科会 (女性委員会) B分科会 (まちづくり委員会) C分科会 (青年委員会)	ロワジールホテル 2階 「パンジー」
			ロワジールホテル 4階 「ビズルームⅠ」
			ロワジールホテル 4階 「ビズルームⅡ」
	15:00~16:30	大会式典	旭川市公会堂
16:50~17:50	基調講演	旭川市公会堂	
18:20~20:20	懇親会	ロワジールホテル 3階 「ボールルーム」	

分科会

A分科会 素材のチカラ「木」がマチを再生する！

女性委員会

旭川は古くから林業や家具生産が盛んで「木のまち」とも言われてきましたが、輸入材等に押され、地場産材を利用してきた企業の廃業も増え、一時の勢いは見られません。しかしながら、近年、公共建築の木造化推進などにより、木は再び注目を集めています。A分科会では、旭川を含めた地方都市の都心再生の起爆剤とすべく、「木」に情熱を注ぐキーマン達の議論から、「木」の持つチカラを探っていきます。

B分科会 賑わい from <買物公園>

まちづくり委員会

旭川買物公園から発行されているタウン誌<hoccol (ほっこる)>。このまちを「歩行る」、このみちを「誇る」のふたつの意味があります。

旭川の「誇り」には、大雪山連峰や石狩川などの豊かな自然や美しい四季がありますが、地元の人には気づきにくい文化的・歴史的風土を保つ「資産」も市内の各地に点在しています。そして、各地の「資産」がそこで暮らす市民にとっての「誇り」として、今もしっかりと魅力を放っています。

しかし何といても、都市機能・生活文化面で旭川の「誇り」は、日本で初の恒久的歩行者専用道路である「旭川買物公園」が一番でしょう。

新しい旭川の顔「北彩都あさひかわ」が姿を現しつつある今、40余年旭川の顔であり続けている「買物公園」を基軸に、街中に点在する文化的・歴史的「誇り」であり「資産」であるこれらを結び付け、「まちあるき」という「観光行動」を起こせないでしょうか。

それぞれの賑わいを共有できる「旭川の魅力」の見せ方・魅せ方を一緒に考えましょう。

C分科会 あさひかわのみらい～楽しく賑わう「都心 ルネッサンス」を描く～

青年委員会

大きな4つの川が市街地を貫流する、水と緑豊かな「川のまち」あさひかわ。

かつては賑わいのあった中心市街地も郊外型商業施設等の出店がつづくなど、今では都心の賑わいを感じる事が少なくなりました。

このような“あさひかわ”の、都心の再生（ルネッサンス）に求められているものはいったい何なのでしょうか・・・。

C分科会では、今の“あさひかわ”を深く知り、建築士という立場で、みらいの“あさひかわ”に何が求められているのかを考え、楽しく賑わう「都心 ルネッサンス」のビジョンを熱く想い描いて、旭川駅周辺開発地区である「北彩都あさひかわ」の開発提案を行います。

大会当日「号外」を発行します！

情報委員会は、臨時編集局を設け、前日の青年サミットや大会当日の式典、分科会などの模様を取材します。

「見て、聞いて、感じた」ホットな情報をギュッと凝縮した「号外」を発行します。

ご期待ください。

基調講演

伝えるのは命のかがやき



講師：旭山動物園 園長 坂東 元

「命の輝きを伝える旭山動物園の園長」「ボルネオ保全トラストジャパン理事」1986年から旭山動物園に獣医として勤務、1995年飼育展示係長、2004年副園長、2009年から現職。

旭山動物園に入園して10年後に閉園の危機に見舞われるが、動物本来の能力や習性を見せる「行動展示」を考案し、奇跡の復活をとげ、日本最北の動物園でありながら、国内外から多くの人々が集まる動物園へと躍進させた。

また、近年はボルネオ保全トラストジャパン理事として絶滅の危機にあるオランウータンやボルネオゾウ等を救うために「ボルネオへの恩返しプロジェクト」を立ち上げ野生動物の保護に取り組んでいる。／1961年 旭川市生まれ。53歳

■著書：「動物と向きあって生きる」「夢の動物園-旭山動物園の明日」 共に(角川学芸出版)

青年サミット

あさひかわの今 ～今の旭川を感じ、みらいに何が必要か～

テーマコメント

本大会のメインテーマ「都心 ルネッサンス」。都心の再生、昔の輝きを取り戻したい・・・そんな思いが溢れています。

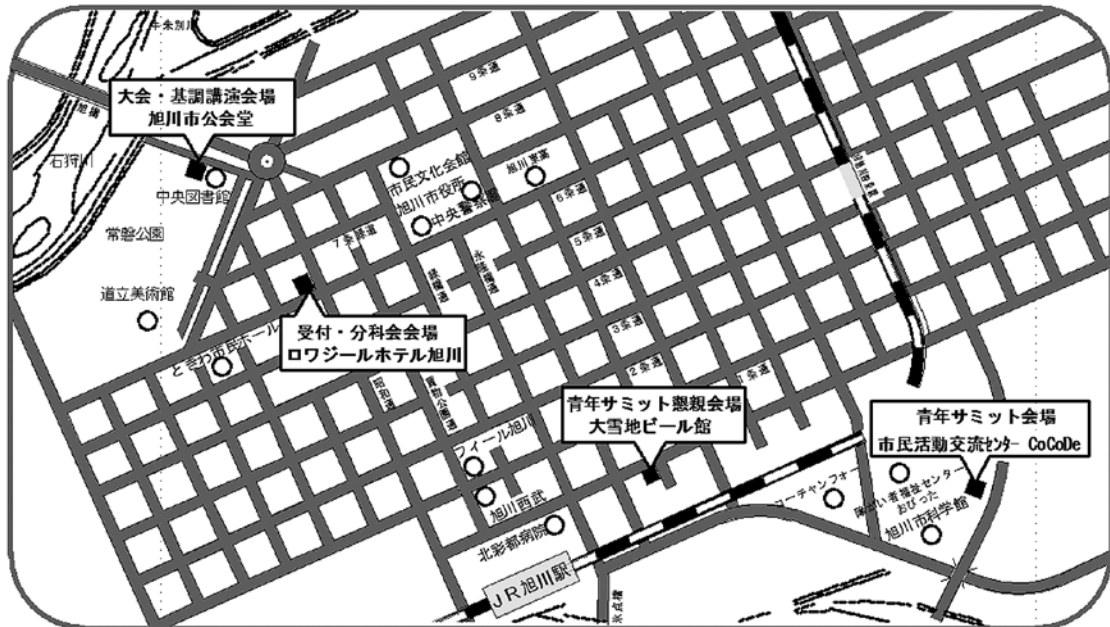
“あさひかわ”は自然に恵まれた四季が明瞭なうつくしいまちです。かつては平和通買物公園に人が溢れた時期もありましたが、今ではそのような都心の賑わいを感じる事が少なくなりました。旭川市では、まちの賑わいを取り戻すために、中心市街地活性化基本計画に基づく様々な施策に取り組んでいます。現在は、鉄道高架化によって新しくなった旭川駅の周辺整備も最終段階を迎え、都心としての再スタートが切られています。しかしながら、都心に賑わいをもたらす「人」が集まらずに何か物足りない・・・と感じてしまいます。我々青年建築士に何かできることはないのでしょうか。

青年サミットでは、まちの散策を通して今の旭川の良さを感じとり、我々青年建築士が行政とタイアップしながら、みらいの旭川のために、何をしなければならないのか、何ができるのかを考え、話し合い、「都心 ルネッサンス」を描くために必要な何かを見つけ出したいと思います。

プログラム

- 13:00～13:30 ■受付
- 13:30～14:10 ■挨拶・説明
- 14:15～15:45 ■まちあるき(移動込み)
- 15:45～16:15 ■休憩
- 16:15～16:55 ■ワークショップ
- 16:55～17:30 ■発表
- 18:30～20:30 ■懇親会

第39回全道大会（旭川大会）会場ご案内



受付・分科会会場	本大会・基調講演会場	青年サミット会場
ロワジールホテル旭川	旭川市公会堂	市民活動交流センター CoCoDe
旭川市7条通6丁目	旭川市 常磐公園内	旭川市宮前通東
TEL 0166-25-8811 (代表)	TEL 0166-25-7331	TEL 0166-74-4151
	専用駐車場 35台	専用駐車場 38台

第39回 (一社)北海道建築士会全道大会 (旭川大会) 参加申込書

	所属支部名	支部
ふりがな	ふりがな	
氏名	同伴者	
住所	〒 - TEL () - FAX () -	
勤務先	〒 - TEL () - FAX () -	

月日	行事項目	参加行事に○印を記入		参加料・代金 /人	金額	備考
		本人	同伴者			
9月26日(金)	青年サミット			/	/	
	青年サミット懇親会費			5,000円		
9月27日(土)	大会参加費			4,000円		
	A分科会					
	B分科会					
	C分科会					
	基調講演					
	大会式典					
	昼食(弁当)			1,000円		
懇親会			5,000円			
■ 各支部への申込締切りは8月27日(水)を厳守願います。				合計金額		

上記のとおり、関係費 円 を添えて申し込みます。

平成 26 年 月 日

[備考]

- ◎大会参加費は、大会参加者全員に納めていただきます。ただし、会員外の同伴者は免除いたします。
 - ◎関係費は、前納制とさせていただきますので、所要事項を記入し、費用を添えて各所属支部へ申し込んでください。
 - ◎申し込みの取り消し及び変更は、9月12日(金)までとし、9月13日(土)以降の取り消しは返金できませんので、ご了承ください。
 - ◎申込用紙は1名につき1枚、同伴者は連名にて料金を加算してください。(申込用紙はコピー可)
- 大会の宿泊については、各自でお手配ください。**

会員増強特別委員会

組織の知名度を上げる情報発信を！

委員・副会長

吉木 隆 (札幌支部)



特別委員会を発足させて「会員増強1割アップ運動」を展開して1年が経過しました。その間入会者と退会者が拮抗しながら徐々に減少して、25年度末で4.4千人となっています。

本部役員、支部役員が行政及び地元企業の幹部や、未加入建築士に説明出来る北海道建築士会のリーフレットを作成し活用しているところです。また、指定登録機関として一、二級木造建築士合格者が登録手続きに、本建築士会事務局に来られる方の目に付くように、受付カウンターに「建築士試験に合格された皆様へ」という封筒を置き入会を促しています。指定登録機関としては、ダイレクトメール等の直接的な入会案内は出来ないこととなっています。歯痒いが、これが本建築士会のとれるギリギリの方策です。会員増強に有効な手立てとして、組織の知名度を上げることです。それも能動的な良いイメージです。



建築士試験合格者への入会案内

今まで内向きの情報発信で、組織内の情報共有に力を注ぐため、会誌「北海道建築士」の毎月発行を行い3年が経過し、それなりの共有化が図られています。今後は積極的に外向きに、私達の活動を色々な媒体を通じて情報発信することが重要になります。本建築士会が広く市民の皆様や未加入建築士に認知されることが大切で、その中から一人の力では無力だが、組織の力ではこんなことも出来るという認識を抱かせることが大事です。

今まさに本建築士会活動は、継続した事業と新規事業が市民の方々に受け入れていただく環境が整いました。

一つには、女性委員会が継続して取組んでいる高校の家庭科教師への住教育セミナーは、北海道建設部からの受託事業として、平成25年度高校2校で住教育授業として実現し、今年度も継続します。もう一つは、本誌6月のトップ頁で紹介された3団体(れきけん、文化財保護協会、本建築士会)が文化庁からの補助事業で、ヘリテージマネージャー等育成及び歴史的資産調査・保存活用の検討推進が3年継続事業として実施されます。その他、景観整備機構指定に向けた取組み等を情報発信し、会員増強に繋げて行きたい。

ヘリテージマネージャー特別委員会

ヘリテージマネージャー育成講座

委員

小川 光代 (札幌支部)



突然ですが、質問です。

Q1 「ヘリテージ」とは何でしょうか？

Q2 「ヘリテージマネジメント」とは？

Q3 「ヘリテージマネージャー」とは？

これが分かれば、歴建好きと胸を張れますよ。

以下は、この講座での意味です。

A1 辞書では「遺産・継承物、伝統・伝承」

この講座では「歴史的地域資産・文化遺産」を指し、建築物には限らず、地域の歴史や文化を伝えるものを幅広く「ヘリテージ」と捉えています。

A2 「歴史的文化的遺産活用」

単なる維持保全ではなく、まちづくりへの活用、文化の継承につながる「マネジメント」を目指しています。

A3 「歴史的建造物の保全活用に係る専門家」

歴史的建造物等の歴史的資産としての価値を示し、その保全活用を進めるための提案ができるスキルを身に着けた専門家を育成する講座です。

・1995年の阪神淡路大震災を契機に始まったヘリテージマネジメントの取組は、現在、全国に広がり、いよいよ北海道でも「ヘリテージマネージャー」の育成講座が始まります。

道内各地には、歴史的資産が多数ありますが、地域の方には気づかれず消失したり、貴重な資料が散逸したりしています。一方で、歴史的資産と認識され手入れされていても、一般市民への宣伝が行き届かず、十分に活用されていないものもあります。

この講座は、歴史的地域資産の保全・修復の技術とともに、文化遺産を活かした地域活性化・街づくりへの活用についても学びます。

地域の文化遺産をもっと活用したいと考える行政の方にも、是非受講していただきたい講座です。

今年度は、まず試行として札幌市を中心に行われますが、「60時間」の厳しいカリキュラムや札幌市外からの参加者などを考慮して、受講日を土曜日と日曜日の開催としています。

また、マネージャーの半分のカリキュラム・費用で受講できるコーディネーターの講座もあり、一般市民でも受講可能となっています。

建築士である皆さんはもちろん、皆さんの周りの歴建好きの方にも、この講座をご紹介し受講していただき、歴史的資産を保全し活用していく専門家を増やしませんか？

青年委員会

地域の歴史と財産を学ぶ

「世界で唯一のばんえい競馬」

道東ブロック長

山田 大樹 (十勝支部)

青年委員会では、青年会員の交流や知識の向上を目的に「青年建築士の集い」を道央・道北・道南・道東の各ブロック持ち回りで開催しています。今年は道東ブロックで、去る5月17日に帯広競馬場を会場に「平成26年青年建築士の集い 十勝大会」を開催しました。十勝支部青年委員会では、「ばんえい競馬」に注目しました。みなさんは、ばんえい競馬をご存知でしょうか？聞いたことはあるかもしれませんが実際に観戦した方はあまりいないと思います。



レースの風景

ばんえい競馬は、北海道では昭和28年から市営競馬として帯広、旭川、岩見沢、北見で開催されてきました。しかし、売り上げの減少により各地で廃止となり、現在では帯広市単独での開催となっています。ばんえい競馬の競走馬は、体重が1トン近くもあり、みなさんがテレビで見るサラブレッドの2倍もあるとても大きな馬です。かつては北海道開拓のための農耕馬として活躍しましたが、「お祭りばんば」が起源となり競馬へと発展しました。レースの内容は、競走馬が、騎手と重りの乗ったソリを引き順位を競うものです。重りの重量はクラスによって違いますが最高で何と1トン。さらに騎手やソリの重さも加わります。それを馬たちが引きながら起伏のあ

るコースを走ります。スピードは人が歩く程度ですが、巨大な馬がレースをするところを間近で見られるためとても迫力があります。観戦者は、馬と一緒に走り大きな声援を送り、お目当ての馬の順位に一喜一憂します。そんな魅力あふれるばんえい競馬は「北海道遺産」にも指定され今後も道内はもとより道外にもファンが増えてほしいと切に願うものです。



バックヤードツアーの風景

当日は、十勝支部を含め全道各地から80名の会員が青年建築士の集いに参加しました。スケジュール前半は、競馬場広報担当者案内のもと「バックヤードツアー」に参加し、一般のお客さんが入ることのできないコースや競走馬の待機場などを見学することができました。特に出走馬が待機場から続々と出てきた時は、多くの会員が競走馬の大きさに驚いていました。

スケジュール後半は、競馬場の歴史と現状について帯広市競馬場振興室の田中室長よりご講演いただき、講演の内容とバックヤードツアーの体験をもとにして、帯広競馬場が多くの人に愛されるようさらに魅力あふれる施設とするための参加者による提案ワークショップを行いました。参加者を



ワークショップの風景

10班に分け、各班には競馬場の全体配置図と建物の平面図を用意し、どの部分をどのように改修したらよいか検討を行いました。

競馬場の現状について「全体的にうす暗い」、「飲食スペースが少ない」等の意見が出されそれらの課題を解決するための提案が出されました。また、敷地内には競馬ファン以外も楽しめる「とちかむら」があるので新たに販売スペースや飲食店数を増やすなどの意見が出されました。

ワークショップ終了後は、各班から発表を行いました。ある班の発表は、「屋内競馬場」と題し、施設周辺をドームで覆うという大胆な発想で、ドーム内にはキッズパークや動物園、スケート場を設置し大人から子供まで楽しむことのできるものとし、さらに競馬場内にはカジノを設置して多くのお客を呼び込む内容でした。他にも「とちかむら」を「道の駅」にリニューアルするなど青年建築士の視点で様々な提案を発表しました。



発表の風景

発表終了後、参加者全員で協賛レース「青年建築士の集い十勝大会杯」を観戦し、レース終了後は優勝した騎手や馬主に針ヶ谷青年委員長から賞金を手渡しました。ホテルの懇親会場でもレースの生中継を観戦し大いに盛り上がり、中には万馬券を的中させた参加者がいたとか？今回の青年建築士の集いでは「ばんえい競馬」の歴史を学び青年建築士の交流を図ることができました。

最後に会場を提供していただいた競馬場関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

日高支部 支部活動

支部長
土井宗太郎



年々会員が減って高齢化している日高支部ですが、平成26年度の支部総会を2月8日、浦河ウエリントンホテルで開催され、報告、議題等は無事終了致しました。

総会終了後の懇親会では、恒例となっておりますビンゴゲームや、ジャンケン大会（米10kg）で大いに盛り上がり会員同士の親睦を深める楽しい総会になりました。

事業活動では、普及啓発活動の一環として行っております、ちびっこ建築士の「絵画コンクール」と、会員同士の親睦を深める目的で行っている「ソフトボール大会」が主な事業です。

「絵画コンクール」は建築物をテーマにして書いてもらい、子供を通じて建築士と地域の方々と交流を深めて建築に興味をもってもらえればと思っています。

「ソフトボール大会」は開催場所が毎年変わり、各町持ち回りで、各町対抗試合で行うのが特徴です。

今では、このソフトボール大会が事業の中で一番参加人数が多く若い人達も多いので、今後も続けていきたい事業活動です。

しかしながら支部活動もマンネリ化してきていて会員からは何か新しい事業を考えては、と言う意見があるのも事実です。

これからは若い会員の人達に活動の場を持たせる事が今後の士会発展の原動力になるのでは！



小樽支部

雪あかりの路 に携わり

青年委員会委員長
佐々木 力



今年の青年委員会は、役員改選により委員長を仰せつかり新体制での活動と同時に1年目の不慣れな中での始動となり、支部長をはじめ関係者の皆様には多大なるご支援を賜りました。

さて、支部での最初の事業が16目を迎えた「小樽雪あかりの路」の協力です。



建築士会は、この雪あかりの路を第1回目から協力している団体として、市内全域に会場が広まりつつある中、「旧国鉄手宮線」跡地の一部を任されています。

メイン会場である小樽運河会場と並び非常に見物客が通る場所に休憩所と屋台の出店管理及びオブジェ製作管理を手がけ、そのとりまとめ役を務めるにあたり非常にプレッシャーのかかるものでした。

まずは10日間という長丁場で自分の体調管理をしっかりすることを心がけました。普段の仕事以上に気を遣い周囲からも冷やかされたりもしましたが期間中は勤め上げることができました。また、開催期間が一番の厳冬期であり天候により、あかりのろうそくが消えたりしないか、オブジェが融けだしたりしないかなど来場されるお客様が雪あかりを見て癒しを感じてもらえるか、気が気でありませんでしたが、最後は建築士会の多大なる協力、また力の大きさを痛感することができました。

富良野支部

歴史を記録に 残す

事務局長
中村 勝利



平成23年から25年度3か年の市の事業で今年3月末、「富良野の近代建築」歴史的建造物調査報告書が富良野市教育委員会より発行された。富良野支部が現地調査・図面作成で協力したものだ。

郷土の風土・歴史・文化・産業など地域特性ある歴史的建造物、小樽・函館など北海道内においても歴史的建造物を活用したまちづくりの取組がなされている。数は少ないが幸いにして富良野においても価値は別として歴史ある建物は存在し、近年少しずつ解体により記録なく姿を消している中で将来に郷土の歴史的建造物として存在した記録を残すことも目的とした事業が行われた。その事業に協力依頼が支部建築士会にあり、10人程の会員が協力し、160ページにまとめられた報告書を市より頂いた。



自分も6年ぶりにjw操作し、建築士だったことを思い出した。

北海道内の歴史的建造物を発掘し、地域の活性化につなげよう

これまで付き合いのなかった3団体（（一社）北海道建築士会、NPO法人歴史的・地域資産研究機構、北海道文化財保護協会）がキーワードの「歴史的建造物」でつながり、任意団体である北海道文化遺産活用活性化実行委員会を立ち上げ、平成26年度文化庁の「文化遺産を活かした地域活性化事業」に応募したところ、この度採択されました。事業を始めるに当たり、事業を円滑に運営していく上で必要な基本的な事項について、5月27日に3団体で協定書を取り交わしました。



協定書調印式の様子

道士会の動き

道本部の主な会議報告（6月）

◆第2回事業委員会

（開催日）6月7日（土）

（議題）

- 1) 「小規模建築物を対象とした地盤・基礎」解説講習会の実施について
- 2) 「第58回建築技術講習会」テキストについて 他

◆青年委員会 社会貢献に関する検討会議

（開催日）6月21日（土）

（議題）

- 1) 「社会貢献活動」に関する取り組みについて
- 2) 全道大会サミット・分科会（旭川大会）について 他

道本部の主な行事予定（7月）

二級建築士学科試験 7月6日（日）
札幌・旭川・函館・釧路・室蘭・帯広・北見
一級・木造建築士学科試験 7月27日（日）
札幌・北見

関係機関等会議出席状況（7月）

7月2日（水）
建築関係5団体（J5）認定資格懇談会（東京）

7月11日（金）
建築関係5団体（J5）シンポジウム（東京）

7月25日（金）
日本建築士会連合会理事会（東京）

上記すべて高野会長出席

編集後記

今月は建築士の学科試験があります。私も十年以上前に受験しましたが、もう一度受験し合格せよといわれるとまったく自信はありません。あれだけ懸命に勉強したのは大学受験以来でしょうか？今、建築士の卵たちが合格を目指して一生懸命勉強していることと思いますが、無事合格し、ひとりでも多く建築士会の仲間になってくれることを願っています。

情報委員 熊谷 智

CPD認定プログラム（6月認定）

◆札幌の景観バスツアー「西区・手稲区編」

《日程及び会場》平成26年7月5日（土）
9：30～17：30
琴似屯田兵村兵屋跡 他（札幌市）

《単位数》

3単位
《問合せ先》（一社）北海道建築士会 札幌支部

TEL 011-232-1843

※申込みは既に締切しています。

◆公開講座「30代建築士が先輩建築士に聞きたいこと」

《日程及び会場》平成26年7月10日（木）
18：30～20：00
かでの2. 7 620会議室（札幌市）

《単位数》

2単位
《問合せ先》（一社）北海道建築士会 札幌支部

TEL 011-232-1843

◆北海道ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座

《日程及び会場》平成26年7月12日（土）他
TKP札幌ビジネスセンター 他（札幌市）

《単位数》

2単位 他（カリキュラムによる）
《問合せ先》（一社）北海道建築士会

TEL 011-251-6076

◆勉強会「建築の実務を学ぶ」

《日程及び会場》平成26年7月23日（水）他
18：00～20：00

ソネビル（帯広市）

《単位数》

各2単位
《問合せ先》（一社）北海道建築士会 十勝支部

TEL 0155-27-1888

図書案内

NEW



小規模建築物向け・設計・監理等業務委託契約書式

- ◎A4版
- ◎定価：864円/会員価格：777円（税込）
- ◎発行：（公社）日本建築士会連合会

各支部からのお知らせ

- 〈函館支部〉 TEL 0138-27-6858
「小規模建築物を対象とした地盤・基礎」解説講習会
8月8日（金） 北斗市総合文化センター「かなで〜る」
- 〈十勝支部〉 TEL 0155-27-1888
「小規模建築物を対象とした地盤・基礎」解説講習会
8月28日（木） とかちプラザ 204号室

情報委員会委員長／神田 光英
副委員長／齋藤 勝哉・早川 陽子・森 勝利
委員／高松 徹・熊谷 智・柳山美保子
鈴木 雅人

北海道建築士 No.203号

印刷 平成26年6月／発行 平成26年7月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
大五ビル
電話 (011) 251-6076番
URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
電話 (011) 811-7151番